

AGC Review

[株主通信]

Vol. 30

2017年3月発行

株主の皆さまへ

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

2016年度の売上高は円高等により減収となりましたが、営業利益は自動車用ガラスおよび化学品製品の出荷数量増加、建築用ガラスの販売価格上昇、原燃材料価格下落等のコストダウン等により、2期連続の増益を達成しました。期末配当金については、期初予想どおり1株当たり9円とし、年間配当金は1株当たり18円となります。なお、2017年の業績予想を鑑み、2017年度の中間配当金は1株当たり10円とし、年間配当金は1株当たり20円（本年7月1日の株式併合考慮前）とすることを予定しています。

経営方針 **AGC plus** に掲げた経営目標を達成し、株主の皆さまのご期待に応えるべく、役員・従業員一同全力を尽くす所存です。今後ともAGCグループになお一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役兼社長執行役員CEO

島村 琢哉

AGC 旭硝子

証券コード：5201

島村CEO インタビュー

「中期経営計画の進捗状況と、さらなる成長に向けた取り組みについて」



AGC旭硝子は、すべてのステークホルダーに価値をプラスすることを経営方針 **AGC plus** に掲げ、2014年度まで続いた減益トレンドに終止符を打ち、再び成長軌道に乗せることを中期経営計画 **AGC plus-2017** の経営課題として事業運営を行っています。2017年度は最終年度となります。この中期経営計画の進捗状況、さらなる成長に向けた取り組みについてご説明いたします。

Q1

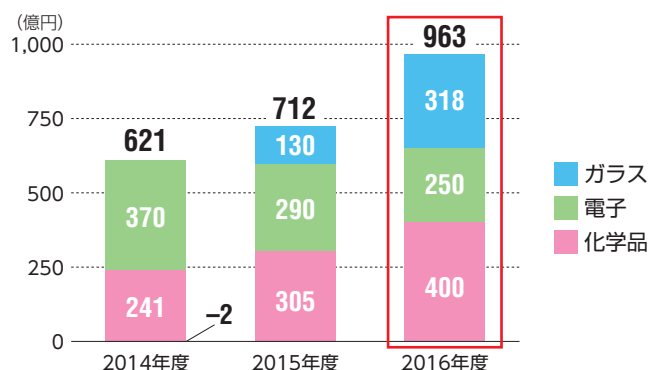
2016年度を振り返るとどのような年でしたか？

AGCグループは、経営方針 **AGC plus** のもと、各事業の収益性・成長性を基軸とした事業ポートフォリオに基づく戦略の方向性とメリハリの効いた経営資源配分により、中期経営計画 **AGC plus-2017** の経営財務目標達成を目指しています。この結果、2016年度の売上高は1兆2,826億円、営業利益963億円、ROEは4.3%と

なり、2016年度は **AGC plus-2017** に掲げた経営財務目標達成に向け、大きく前進した年となりました。さらにポートフォリオ経営の推進により、ガラス・電子・化学品の各事業がバランスよく利益を生む構造となりました。

	AGC plus-2017 2017年度 経営財務目標
売上高	1兆6,000億円
営業利益	1,000億円以上
ROE	5%以上
D/E	0.5以下

営業利益推移



※セラミックス・その他、および消去の数値を除いたグラフのため、各セグメントの合計値は営業利益の合計と一致しません。

Q2

経営財務目標の達成に向けた考えをお聞かせください。

2017年度の営業利益は、前期比87億円増の1,050億円を見込んでいます。中期経営計画 **AGC plus-2017** の最終年度となる本年も、引き続き設定した各事業の方向性に沿った事業運営を行うことで、営業利益およびROEなどの経営財務目標を達成できるものと

確信しています。この目標達成をあくまでも通過点ととらえ、さらなる成長に向け、引き続きポートフォリオ経営の推進とメリハリの効いた経営資源配分に基づいた事業運営に取り組み、2020年度までにROE8%以上の達成を目指します。

Q3

2016年度に発表した買収について教えてください。

2016年度は、M&Aを中心として設定した戦略投資枠3,000億円を活用し、基礎化学品事業ではビニタイ社（タイ）の買収（約335億円）、ライフサイエンス事業ではCMCバイオロジックス社（デンマーク・米国）の買収（約600億円）などを決定・発表しました。これらは、

“2025年のありたい姿”で示した基本方針に沿ったものです。今後も、コア事業および戦略事業の両方を対象に、戦略的なM&Aを大胆に行い、2025年のありたい姿の実現を目指します。

“2025年のありたい姿”

コア事業が確固たる収益基盤となり、戦略事業が成長エンジンとして一層の収益拡大をけん引する、高収益のグローバルな優良素材メーカーとなる

コア事業

ポートフォリオ経営の徹底による
長期安定的な収益基盤の構築

- ・ 建築用ガラス
- ・ 自動車用ガラス（既存）
- ・ 基礎化学品
- ・ フッ素化学品
- ・ ディスプレイ
- ・ セラミックス

戦略事業

高付加価値ビジネスの拡大による
高収益事業の確立

- ・ モビリティ
- ・ エレクトロニクス
- ・ ライフサイエンス

基本方針

- ① 常にマーケット視点に立ち、お客様からの期待に応え、信頼を高め続ける
- ② コア事業・戦略事業とも、自律的成長に加え、戦略的なM&Aを大胆に行い、持続的成長を図る
- ③ 東南アジアと中東を面をつなぎ、アジア地域の高成長を取り込む
- ④ メリハリのある経営資源配分を徹底し、資産効率の高い事業構造に転換する

ビニタイ社（タイ）

ビニタイ社は、タイで苛性ソーダや塩化ビニル樹脂（PVC）等を販売する化学品会社です。AGCグループは、経営方針 **AGC plus** の注力事業として、苛性ソーダおよびPVCの市場の成長が見込まれる東南アジアにおける化学品クロール・アルカリ事業拡大を目指しています。このたびのビニタイ社買収により、インドネシア、ベトナムに続きタイにも新たなPVC生産拠点を確保し、大きく成長する当該地域の需要拡大に応じてまいります。



バイオミーバ社（ドイツ）、CMCバイオリジックス社（デンマーク・米国）

当社は、2000年初めよりバイオ医薬品製造受託事業を開始し、主に日本で微生物を用いた医薬品製造受託事業を行っています。2016年8月にバイオミーバ社を買収し、欧州での製造、開発拠点を獲得しました。それに続くCMCバイオリジックス社の買収により、動物細胞を用いたバイオ医薬品製造技術とその主要市場である欧米の顧客基盤を獲得しました。これらの買収を通じ、高い技術力と信頼される品質に裏付けられた世界トップレベルのグローバル製造開発受託会社として、製薬会社、患者さま、そして社会に貢献してまいります。



Q4

株主還元についての考えをお聞かせください。

現在の1株当たり年間配当額以上の継続を基本に、自己株取得を含めた連結総還元性向50%以上を目安とし、連結業績や将来の投資計画等も総合的に勘案しながら積極的に株主の皆さまへの還元に努めることとしています。2016年度の業績結果および2017年度の業績予想などを鑑み、以下の株主還元を実施します。

■ 自己株式の取得

2016年度の業績に対する株主還元として2017年2月～3月において自己株式の取得（取得総額：100億円を上限、または取得株式総数1,500万株を上限）を

実施しています。これにより、2016年度の連結総還元性向は最大で約65%となります。

■ 2017年度配当金（予想）

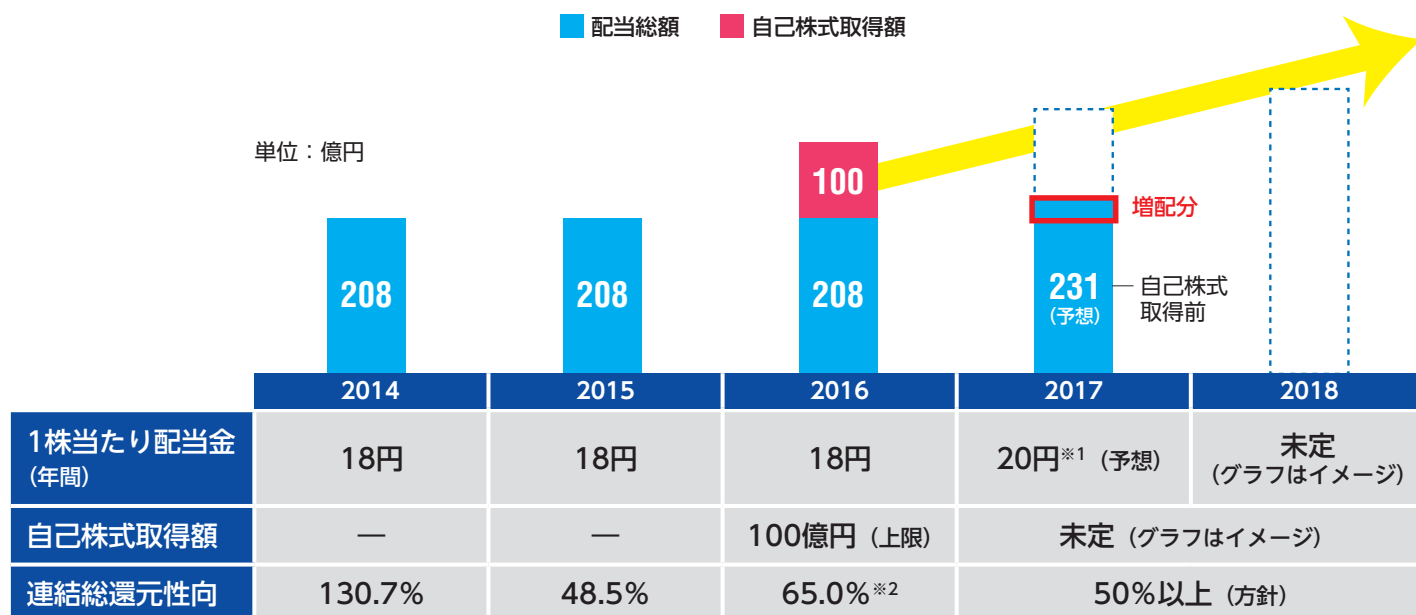
2017年度の配当金は、中間・期末各1円ずつ増配し、中間10円/株・期末10円/株^(※)を予定しています。

(※) 2017年7月1日付けの株式併合（5株を1株に併合）の考慮前のものです。株式併合後の実際の期末配当金は50円/株の予定です。

今後も株主還元方針に基づき、連結総還元性向50%以上の継続的な実施に努めてまいります。株主の皆さまの一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

■ 配当総額 ■ 自己株式取得額

単位：億円



※1 2017年は株式併合（2017.7.1付け）の考慮前

※2 取得総額の上限である100億円で計算した場合

業績ハイライト

2016年度業績のポイント

売上高

円高等の影響を受け減収

営業利益

自動車用ガラスおよび化学品製品の出荷数量増、建築用ガラスの販売価格上昇、原燃材料価格下落等のコストダウンにより増益

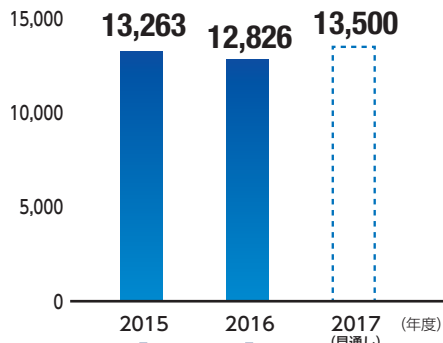
親会社の所有者に帰属する当期純利益

2015年度に計上した退職後給付制度改定益が2016年度には発生しなかったものの、法人所得税費用が減少したことなどから増益

売上高

12,826億円 (前期比 3.3%減)

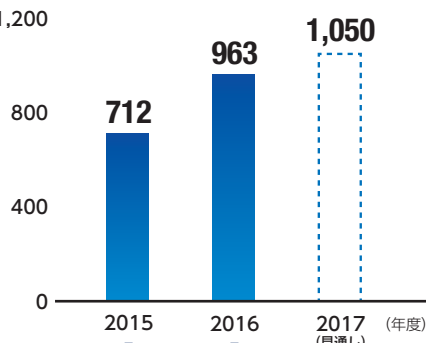
単位：億円



営業利益

963億円 (前期比 35.3%増)

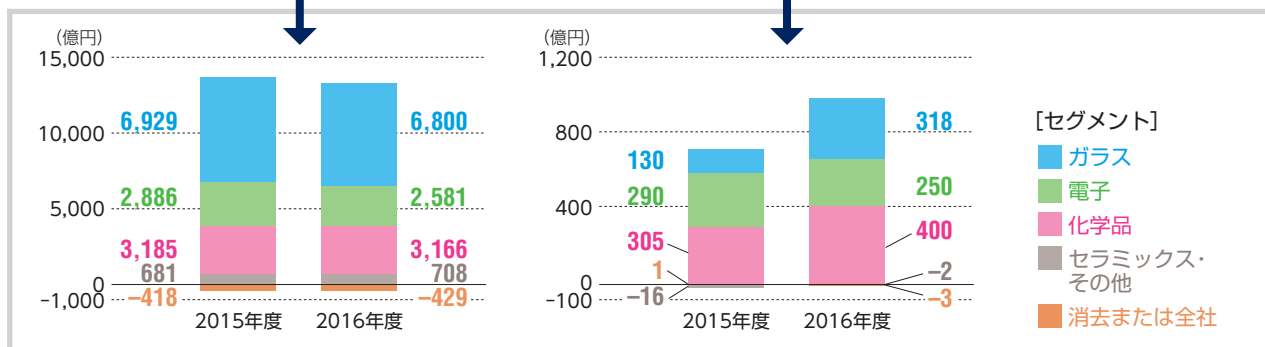
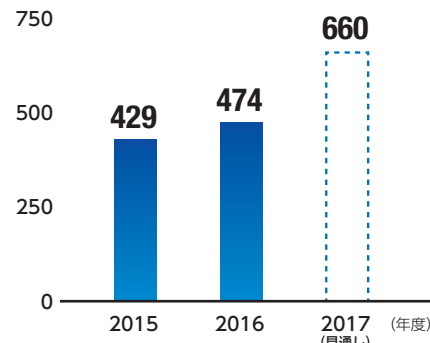
単位：億円



親会社の所有者に帰属する当期純利益

474億円 (前期比 10.6%増)

単位：億円



トピックス

インド事務所と中東・アフリカ事務所 (ドバイ) の設置

AGC旭硝子は、2016年10月にインドおよびドバイに事務所を開設しました。両事務所の活動目的は、高成長が見込まれる南アジアと中東・アフリカ地域での情報収集とマーケティングです。

AGCグループは、これまで東南アジア地域で事業を展開してきましたが、今後はこれに加えて南アジア、中東までを面をつなぎ、これらの地域での高成長を取り込むべく活動していきます。



ドバイから

AGCグループの新たなチャレンジとして、ドバイに事務所を開設しました。中東・アフリカ地域は今後の著しい成長が見込まれることに加え、複数の大規模プロジェクトも計画されており、世界からの熱い視線を日々感じています。オールAGCで新規市場に挑むハブとして、世界中のメンバーとも協力し、AGCの中東・アフリカでのビジネス拡大を通じたグローバルブランドの発展に挑みます。

AGC中東・アフリカ事務所長 曾根 純也

単元株式数の変更と株式併合について

単元株式数の変更

1,000株から100株に変更

株式併合

5株を1株に併合

例) 効力発生前に1,000株をお持ちの株主様

所有株式数 1,000株 → 200株

単元・議決権数 1個 → 2個



当社は、2017年7月1日を効力発生日として、単元株式数を1,000株から100株に変更し、また投資単位を適切な水準に調整することを目的として、株式併合（5株を1株に併合）を実施します。

今回の株式併合により株主様のご所有株式数は5分の1となりますが、株式併合の前後で会社の資産や資本は変わらないため、株式1株当たりの資産価値は5倍になります。株式市況の動向等の他の要因を別にすれば、理論上は、株主様ご所有の株式の資産価値に変動はありません。

例えば、2017年度の期末配当金は、1株当たり10円を予定しておりますが、株式併合の影響を考慮すると、1株当たり50円の配当となります。（中間配当金は、株式併合前の株式数に応じて実施されます。）

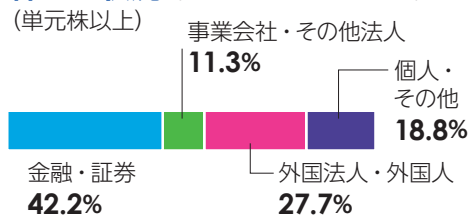
会社概要 (2016年12月31日現在)

名称
通称社名 AGC旭硝子
AGC ASAHI GLASS
登記社名 旭硝子株式会社
ASAHI GLASS CO., LTD.
創業 1907年9月8日
設立 1950年6月1日
資本金 90,873,373,264円
本社所在地 〒100-8405
東京都千代田区丸の内
一丁目5番1号
(新丸の内ビルディング)
電話 (03) 3218-5096
連結対象子会社数
204社 (うち海外165社)

株式の状況 (2016年12月31日現在)

発行済株式総数 …………… 1,186,705,905株
株主数 …………… 59,646名
(単元株以上株主 …………… 49,262名)

株主の状況 (2016年12月31日現在)



株式関連情報

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会開催月 3月
基準日 定時株主総会 12月31日
期末配当 12月31日
中間配当 6月30日

公告方法 電子公告

[公告掲載アドレス] <http://www.agc.com>

株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関
三菱UFJ信託銀行株式会社
[電話お問合せ・郵便物送付先]
〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 (0120) 232-711 (通話料無料)

配当金のお支払いについて

配当金は、支払開始の日から満5年を経過いたしますと、定款の定めにより、お支払いができなくなりますので、お早めにお受け取りください。
なお、未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

単元未満株式をご所有の株主様へ

株主様をご所有の当社単元未満株式（1～999株）につきましては、当社に対し買取・買増をご請求することができます。お手続き用紙のご請求その他お手続きの詳細は、下記お問合せ先までご連絡ください。

株式に関するお問合せ先

証券会社等に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
口座を開設されている証券会社等	三菱UFJ信託銀行株式会社（特別口座管理機関） 電話 (0120) 232-711 (通話料無料) ※特別口座に記録された株主様の住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式の買取、口座振替に必要な各用紙のご請求は、特別口座管理機関のフリーダイヤル(0120) 244-479 (24時間・自動音声対応) をご利用ください。



将来情報に関する注記

本誌の記載のうち、将来の計画数値、施策などに関する記載については、不確定な要素を含んだものであることをご理解ください。